

日本機能水学会第 20 回学術大会の開催にあたって

大会長挨拶

岩澤 篤郎

(東京医療保健大学大学院 教授)

この度、第 20 回日本機能水学会学術集会を開催させていただくことになりました。私は、1989 年に当時アクア酸化水と呼称されていた次亜塩素酸水の抗ウイルス効果の検証依頼から 30 年以上この機能水の世界に関わってきました。20 回の記念大会の大会長にご推挙いただき感謝申し上げます。先輩諸氏が積み上げてきた本学会がさらに有意義な場になるべく、皆様のご支援、ご協力のもと本会を運営していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、「機能水の滴り、大海へ」をテーマにした理由ですが、1995 年にまとめた「アクア酸化水の使用手引」の冒頭に岡田淳先生(当時関東通信病院)が次のように記しています。

水の滴りは微なりといえども、漸く大器に満つ

その後、アクア酸化水は強酸性電解水として、医療機器の認可を取得しました。さらに多くの方の努力により、次亜塩素酸水として食品添加物の殺菌料として、また特定農薬として、幅広い分野で使用されるようになってきました。機能水は、電解水・次亜塩素酸水だけではありません。アルカリイオン水やオゾン水に関しても積極的に本学会で議論してきました。当初から関与してきた私にとって、機能水の滴りがやっと日本で認知され世界へ、様々な場面に展開されるようになったと感じていることから、本テーマとしました。

大会長として、その他の処理を施した機能水に関しても今後積極的に議論していく必要と若手の研究者のさらなる飛躍の必要性を感じています。そこで、大会長セッションで二人の若手研究者をお呼びしました。さらに、プログラム委員長の菊地憲次先生を中心とした委員会において討議し、特別講演として高木弘隆先生より「各種電解水の各種ウイルス不活化効果の評価と衛生管理への活用に関する基礎研究」というタイトルで講演いただきます。また、教育講演は 4 講演で、岩橋 均先生より「酸化チタンナノ粒子は紫外線照射下において酵母細胞を紫外線から守る」、中山卓也先生より「放射性物質で汚染した金属の酸性電解水に夜除染方法」、小川 晋先生より「電解水素水による酸化ストレス抑制作用とそのインスリン抵抗性改善効果の検証:多施設共同無作為割付二重盲検臨床試験の結果から」、栄長泰明先生より「ダイヤモンド電極の基礎と応用」をはじめ、機能水がより幅広い分野に波及すべく、興味深いプログラムが展開されています。

20 回の記念大会を会員の皆様と盛大にお祝いしたかったのですが、コロナ禍がまだ収まりません。残念ですが、最適な感染対策を施しながら、昨年と同様に 10 月 1 日 2 日 渋谷にある長井記念館で現地とオンラインによるハイブリット開催としました。多くの会員の皆様にとって有意義な大会となることを祈念しています。